

ところで横瀬古墳に周溝が廻っていたことは昭和52～53年にかけて鹿児島県教育委員会が行った発掘調査で明らか

にされています。墳丘周りのク ロップマーク、ソイルマークは、まさに県教育委員会の発掘調査で確認した周溝の範囲と一致します。

この写真の最も注目すべき点は、鹿児島県教育委員会が過去の調査で明らかにした周溝のさらに外周の部分にあります。明らかに別の周溝らしき痕跡が見えるのです。これによって、横瀬古墳には内溝と外溝の二重の周溝が廻

らされている可能性が言われるようになりまし

### 調査の方法

平成22年8月下旬～9月下旬、平成23年8月下旬～10月上旬の2回にわたって、横瀬古墳の外溝の存在を確認するための調査を行いました。一般的に発掘調査と言えば、たくさんの作業員が広い場所を調査している風景をイメージしますが、これは遺跡の実体を全面的に調べる調査で『本調査』とい

有るのか無いのか、有るとすればどんなものが、どれくらいの深さに、どれだけ

の量で、どれくらいの範囲まで存在するの

かをあらかじめ調査を行います。これを『確認調査』とい

います。これを『確認調査』とい

います。これを『確認調査』とい

います。これを『確認調査』とい



昭和52・53年の鹿児島県教育委員会の確認調査で明らかにされた周溝のク ロップマーク・ソイルマーク  
この写真で新たに見出されたク ロップマーク・ソイルマーク

